

40

周年記念誌

The Fortieth Anniversary

1955-1995

HIYOSHISAKURA KINDERGARTEN

学校法人日吉学園 日吉さくら幼稚園

40周年を迎えて

目次

2	児童・園庭
8	本園の経緯
8	本園の経緯
4	「こども育心会」の活動
2	保育の理念
7	本園の経緯
11	園長・職員
12	こども会
12	こども会
18	園庭の整備
20	園庭の整備
29	園庭の整備
32	こども会
36	園庭の整備



学校法人日吉学園
日吉さくら幼稚園



創立者 栗原彌市



初代園長 柚木ぬい

日吉さくら幼稚園園歌

作詞 栗原延雄 作曲 小林蔵雄

- 一、きょうもげんきに ランララン
 まんまるおめめ クルクルリン
 すなおでほがらか よいこたち
 しあわせいっぱい はねまわる
 なかよしこよし わになって
 とおくの とおくの
 たかいおそらを みつめよう
 みんなのひよし さくらようちえん
- 二、きょうもたのしく ランララン
 まっくろおかお コロコロリン
 あかるくなかよし よいこたち
 ちからいっぱい のびてゆく
 さくらのそので てをつなぎ
 おおきな おおきな
 まるいゆめを そだてよう
 みんなのひよし さくらようちえん

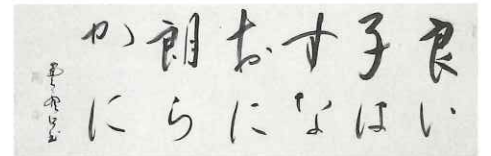
☆本園の教育理念



人間教育の基礎である幼児教育の重要性を考え、保育の目標を人間形成の上で一番大切な「心」を育てることを留意点としています。その上で幼児期らしい生活を充実させ、さまざまなことを体験し、自主性を育て、自立心を養うことができ、将来的に有為な社会人となるために必要な生活の基礎的習慣を、年齢に応じて確実に習得させるよう、次のように年齢別の具体的な目標を定めて、毎日の保育は展開されます。

- ◎3歳児 … 幼稚園の生活に慣れ、身近な人々と楽しく遊ぶ
- ◎4歳児 … 友だちとかかわりながら、集団で活動することを楽しむ
- ◎5歳児 … 周りの人々に対する思いやりの心を大切に、集団の中で自己主張をしたり、人々の立場を考えながら行動する

☆本園の教育内容



本園の教育は、学校教育法第77条及び第78条に基づき、「幼児を保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的とする」と「園則 第1章 総則の第1条」に規定されております。また、「幼稚園教育要領」に示されている五つの領域のねらい及び内容を達成することにあります。「幼稚園教育要領」に示されている「ねらい」には、幼稚園修了までに育つことが期待されている心情・意欲・態度などが含まれ、これらを幼児の発達の側面から次のようにまとめられています。

- ◎心身の健康に関する領域 … 「健康」
- ◎人とのかかわりに関する領域 … 「人間関係」
- ◎身近な環境とのかかわりに関する領域 … 「環境」
- ◎言葉の獲得に関する領域 … 「言葉」
- ◎感性と表現に関する領域 … 「表現」

これらの五領域に示されるねらいは、幼稚園での生活で幼児自身が遊びを通して、種々の体験を重ねる中で五領域の内容が相互に関連をもって達成されるものなのです。当園では、3歳、4歳、5歳のそれぞれ、カリキュラムを立案し、計画的に保育が展開されるよ

うに教職員で日々の保育を行っております。

3歳、4歳、5歳のそれぞれの指導計画の立案にあたっては、当園独自の『道しるべ』として、以下のことを大切に考えております。

当園独自に、三つの大きな柱を立てておりますが、これは創立以来のもので、「幼稚園教育要領」に示されている五つの領域のねらい及び内容が相互に関連をもっております。

保育目標『豊かな心を育てよう！』

健康

- ・丈夫な体をつくる
- ・健全な心を育てる

*広い園庭での戸外遊びの充実。

*散歩、園外保育、どんぐりひろい等で、歩く習慣をつける。

*毎週水曜日の‘スポーツの日’には、いろいろな運動競技に挑戦する。

*年間を通じて遊びの中でマット運動や跳び箱、巧技台を利用する。

*4歳児は、専任講師によるリズム体操を行い、リズム感を養うとともに、柔軟性や基礎体力の増進をはかります。

*5歳児は、専任講師による体操指導を行い、小学校への進学を考慮して技術的な運動能力の促進をはかります。

情操

- ・子供の感性を育てる
- ・何ごとにも意欲を持たせる

*表現活動……音楽、リトミック、描画工作等を通し、幼児らしい豊かな表現力と創造性を発達段階に応じて育てる。

*さくら文庫……蔵書の充実を図り、本への興味を育てるとともに、幼稚園教育要領に示されている「簡単な標識や文字などに関心をもつ」よう貸し出しをしております。

*動植物の飼育栽培……うさぎ、チャボ、小鳥などの飼育や草花や、野菜を種蒔きから作るということで、四季の移り変わりを知り、事象観察を通して、生命の大切さを理解させます。

*陶器(焼き物)作り……信楽の粘土から年齢に合わせた作品作り。泥粘土から形にし

色を付けるなど、たった一つの作品を作り上げる喜びを知ります。

*お茶のお稽古<年長児>…家庭から忘れ去られようとしている畳の上での行儀作法(正座/お辞儀/歩き方等)を身につける。

融和

- ・友達との関わり合いを持つ
- ・集団生活の中で自立する
- ・自分より弱いものへのいたわりを持つ

*日々の保育の中で、他学年、他クラスと常につながりを持って交流し、思いやりやいたわりの心を育てる。

*園での‘やくそくごと’やルールを全員で守れるようにする。

*小動物の世話をすることにより、親しみをもち、かわいがる気持ちを育てる。

年間行事 行事を大切にする保育

四季折々に合わせた生活体験を重視し、保育の中に日本古来の年中行事を積極的にとり入れております。このことは、有意義な場面を園児らに体験させることにより、生活のけじめを自覚し、協調性を育て、他人への感謝の気持ちを持つなど、保育活動を展開する上でも、よりよい足がかりとなります。



ボディペインティング

各学期の主な行事

・一学期

こどもの日の集い/おやこ会

遠足/プール開き

プラネタリウム見学(年長)

カレーパーティー/タベのつどい

おとまり保育(年長)



園外保育

• 二学期

防災訓練／敬老のつどい
お月見／おまつり
運動会
東芝科学館見学〈年長〉
生活発表会



おまつり

• 三学期

おもちつき／新入園児一日入園
豆まき／作品展
電車とバスの博物館見学〈年中〉
消防署見学〈年少〉
ひなまつり会食会
お別れ遠足〈年長〉



運動会



生活発表会

卒園式

40周年に寄せて

前園長 若山千鶴子



40年という永い年月、日吉さくら幼稚園は、栗原先生を中心として、先生方、保護者の方々の限りない愛情と御丹精によって、多くの園児の皆さんが、守り育てられて参りましたことを深く感謝しております。

今後ともに日吉さくら幼稚園が、園児の皆さんのすこやかな心身を育てて行く大切な場として、ますます栄えていきますようにと、心から願っております。



旧園舎上棟式 (昭和30年9月)



日吉幼稚園
建築現場
(昭和29年)



園長製作のみこし (昭和30年)



開園式典

園長 栗原延雄

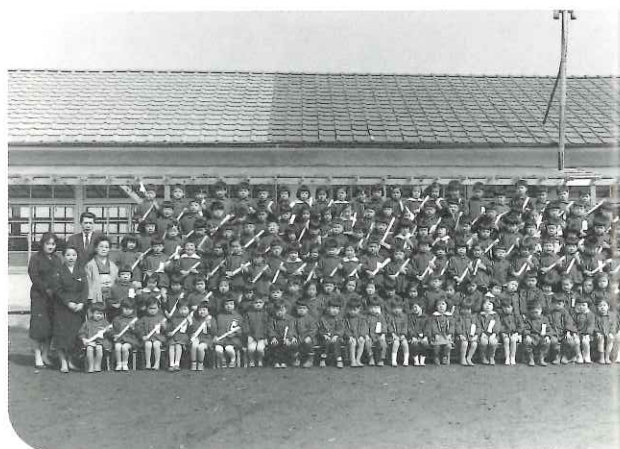


日吉さくら幼稚園開園40周年を迎え、記念誌の発刊に際し、その生い立ちを少し述べさせて頂きたいと思っております。

当園が、この地に産声を上げたのは昭和29年2月、現在の園舎より東方、約200メートルくらいの所に木造一階建、保育室2、小ホール1、管理室等を含む約30坪の建物に、幼児数8名、教諭1名、助手1名で『日吉幼児園』として出発しました。当時この地域は、見渡す限りの畑地。あちこちに雑木林も残り、のどかな田園風景が続く自然が一杯な環境でした。幼児たちは、30分も40分もかかって歩いて通っていました。雨の日や、冬の雪の日などは、泥足できました。

この施設では県の公認が取れず、思いきって現在の場所に新園舎を立てる準備を父と始めました。昭和30年の櫻の頃です。木造一階建、保育室2、ホー

落成当時の旧園舎



ル1、管理室他70坪の建物です。昭和30年11月30日付けで当時の内山岩太郎県知事の公認を受け、日吉さくら幼稚園はスタートしました。

昭和37年、38年の高度成長期は、東京オリンピックを控え、日本中が沸き立っていた頃で、幼稚園にもその余波が押し寄せていました。この地域も人口が増加し、幼稚園への入園希望が多く、受付の2日前くらいからお父さん、お母さんが順番待ちをする状態でした。私もみなさんと徹夜のお付き合いをし、11月1日午前8時より受付をしたことが、つい昨日のことにように思われます。受け入れる幼稚園側は、県庁、神奈川県私立幼稚園連合会、横浜市幼稚園協会等々の通達により、出来る限り努力をして幼稚園浪人を出さないようにしてほしいということで、当園も園舎の改築を重ね、一時期は300名近くの園児をお預かりしました。

世の中の移り変わりとともに園児の数も減少しておりますが、その間、昭和60年3月には、学校法人の認可も得、昭和63年4月より鉄筋コクリー

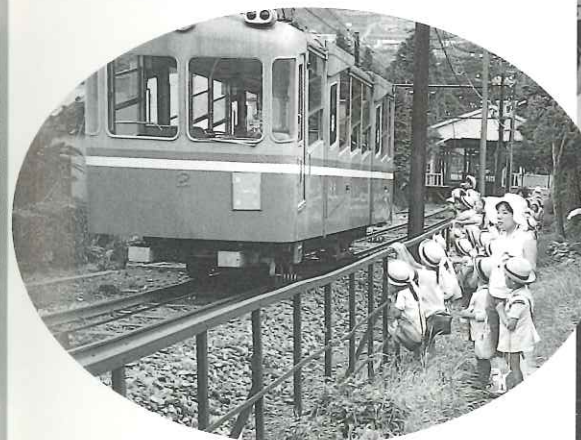


初めての遠足 (野毛山動物園)



新園舎の建設

地鎮祭



第1回お泊り保育 (箱根宮城野)



ト2階建、延べ500m²近い現園舎が完成し、同年12月には竣工式を行い、現在に至っております。その間、種々な問題に出会いながら、亡き父が志した建学の精神、「こども達の心を大切に育て、健康な身体を作る」ことを教育目標として日々の保育を行っております。

40年の長い歳月を支えてくださったのは、大事なお子様を私共にお預けくださった父母の皆様、力を添えてくれた先生たち、地域の多くの人々、そして幼稚園仲間の園長、設置者の皆様。多くの人々に、すべての方々に心から感謝し、これからの日々にも初心を忘れず、地域の幼児教育の拠点としてこの地に根を下ろし、次の世代へつなげていく所存でおります。

卒園生も四千名に近く、各地でよき社会人として力を発揮し、人々のお役に立っていることと信じております。幼い日の幼稚園生活がよき思い出として残り、人間形成に役立って行くことを心から念願し、40周年を新しいスタート地点として、歴史と経験を土台とし、明日からも頑張ってお参ります。

皆様から頂きましたお力添えに心から御礼申し上げます。

新園舎の建設 地鎮祭



建築現



『子どもの守り神』
ロコサトシ作



教職員

園長 栗原 延雄
理事長

副園長 栗原 知子
主事 栗原 基

つばめ組担任 木村 朋子

はと組担任 森田 和美

うさぎ組担任 市川 由理子

たんぼ組担任 元木 るり子

たんぼ組副担任 石井 亜衣

教諭 栗原 エミ子

講師:茶道 田中 和子
講師:体操 小山 浩

役員

理事長 栗原 延雄

理事 若山 千鶴子

嶋村 尚美

田辺 昇

沢 総子

栗原 基

田中 和子

監事 横山 敏三

石渡 辰治

評議員 天野 秀二

松本 喜代治

工 弘美

田辺 和男

吉野 昭治

汰木 栄

市野 正治

佐野 利彦

飯尾 満

鶴田 忠雄

田島 弘

光永 晶子

下島 愛子

栗原 知子

小山 浩